

実現可能性訴求タイプ応募用紙

作品名	オープンストリートマップで地域地図作成と活用
-----	------------------------

①応募者名および連絡先※必須

※氏名	柴田 晃
※郵便番号	
※住所	
※電話番号	
メールアドレス	help@eva.gr.jp

②概要：1,000字程度

現在インターネット上にある地図情報はそれぞれの会社に著作権があり、自由にコピーや改変（改良を含む）をすることができない。

インターネット上では自由な地図を作るオープンストリートマップ（日本語サイト <http://www.openstreetmap.jp/>、世界共通サイト <http://openstreetmap.org/>）というプロジェクトがあり、クリエイティブコモンズ（CC-BY-SA 2.0）というライセンスで、有志による世界規模で地図情報作りが進んでいる。クリエイティブコモンズ（CC-BY-SA 2.0）は、簡単に言えば、自由にコピーや引用、さらに改良・商用利用などができる。

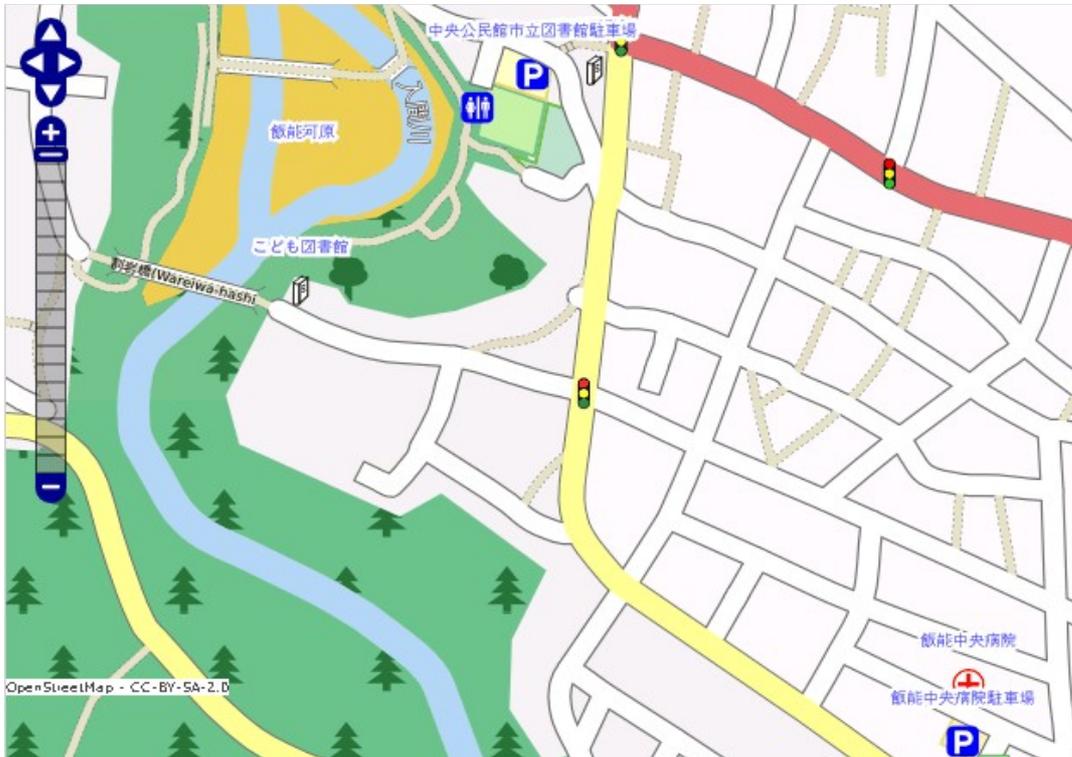
そこで飯能市において、柴田が既に飯能市内の95%以上の舗装道路をトレースし、基礎データとして作成してあるので、個別に店舗情報やバス停などを入力し会社への経路情報作成、あるいは観光情報を入れることでたとえば観光地図やエコツーリズム地図を作ることが可能である。応用してハイキング等を前提にした健康増進地図などの地図基本情報を充実させることが可能である。下に現在入力してある情報から作成された地図をコピーして貼り付けるが、この行為についてクリエイティブコモンズ（CC-BY-SA 2.0）のライセンスの下では合法である。しかしながら、yahoo や google の地図で同じことを行ったときには違法行為であり、自由に使えるとは言いがたい。

ドイツでは高等裁判所の案内図にこのオープンストリートマップで作成された地図を使っている（<http://www.bundesverfassungsgericht.de/organisation/anfahrt.html>）し、自転車用道路なども同じようオープンストリートマップで作られてもいる。

飯能市の各店舗や会社、あるいはハイキングルート地域を案内するためのありとあらゆる情報を投入することができる。この作業は誰でも無料で登録し、無料で改良し、無料で利用することができる。飯能市の地図情報を充実させて、地図作りをして地域活性化につながるものと、このオープンストリートマッププロジェクト活用を呼びかけるものである。

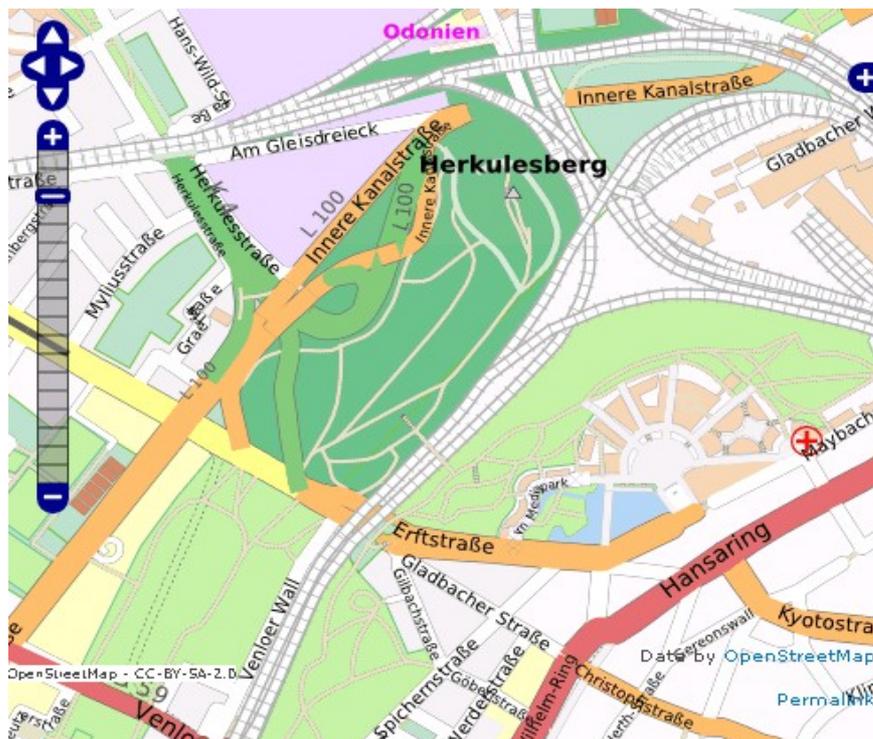
飯能河原近辺の図。

<http://www.openstreetmap.jp/showmap?zoom=17&lat=4280486.26408&lon=15508396.76305&layers=B0>



ドイツ・ケルン駅近郊

<http://www.openstreetmap.jp/showmap?zoom=15&lat=6612341.13093&lon=772584.59133&layers=B0>



③詳細説明 4,000字以内

図表は字数に数えません。図表部分をA4判用紙2枚以内に収めてください。

【記載項目】

①事業の目的、ねらい、ビジョン・・・（何のために－ why）

飯能市と近辺の地域情報を無料またはローコストで合法的にかつ自由に作成、改良して利用することで、事業者の大小を問わないで非常に低廉に地図情報を活用できるようになることを目的とする。飯能市内の独自の地図情報利用事業を起こす団体が現れれば活用できるようになれることも期待する。

②事業の内容、イメージ・・・・・・・・（何を－ what）

労働集約的仕組みなので、個々が自身で出来る範囲を整備し、それを互いに利用できる集知を元にしたウィキノミクスの実現と協働活動を根本原理とする。

③事業の対象、基本システム・・・・・・・・（どこの、誰に、どのように－ where,how）

ア.場所は、方法は

現実には全世界の情報を扱える仕組みで、実際に欧州などでは実用化が進んでいるが、日本では2008年春に活動が始まったばかりで、今回のプランニングでは範囲を現時点で道路情報をそれなりに入力終了している飯能市近辺の限定とする。インターネット上にアクセスできる機器を持ち、場合によっては測地関連機器(最近は低廉に販売されている)を使い、必要な知識をもてば、後はやる気と活動に費やす時間だけで可能である。

イ.誰か（顧客・競合）

顧客としては飯能近辺の地域情報を使いたい人・事業者すべてで、たとえるなら地域案内地図の元データにしたり、ハイキング用観光地図を作ったり、自社・自店舗までの道のりの地図をコピー・改変・配布などをするなどの利用者すべてで、必要なコストはオープンストリートマップにアクセスし、地図を必要な状態にまで改変するだけのマンパワーのみである。

競合するのは、各種GIS関連業者で、紙媒体ではゼンリンなど、インターネット上ではGoogle MapやYahoo地図などがそれにあたるが、反対にオープンストリートマップは彼らの利用も制限しないので協働としての相互作用があるかもしれない。

④事業の構造、推進体制・・・・・・・・（誰が、いつ－ who, when）

事業としては、現在は直接的利益組織は存在しない。しかし、オープンストリートマップの地図情報の利用はなされないため、情報を元にした独自の絵柄や地図表現などを作成できる仕組みをもった組織を立ち上げれば、それで利益を上げることは可能で実際にそういった地図を作成して利益を得ている組織が出始めている。

推進は、出来る者が、出来ることから、必要に応じて活動してデータを集積して、必要に応じて、取り出し、改善・改良してデータの質を高める。組織的な推進はしなくともウィキノミクスの原理からは必要性の高いところから、質が高まり価値が高まっていくことがわかっているため、必要性があったときに組織を作ればよい。

⑤事業の収支・目標・・・・・・・・・・（費用・売上・儲け－ how much）の概要

オープンストリートマップそのものは利益を求めている仕組みではないので、オープンストリートマップを利用するために必要な費用は特になく、売上や儲けはそのデータを活用する者が活用するために必要な経費を差し引いて、上がったものがそのものである。

⑥その他の要素・・・・・・・・・・（KFS、課題、SWOT 分析など）

成功要因は、地域の力とやる気である。必要な知識はそれほど多くないので、活動開始にあたって最初に呼ぶ講師（現在の目当ては NTT-DATA 所属の方）はほぼ手弁当で呼ぶことができ、その講習をうけて活動したものが、新しい入門者の講師となることも可能である。

オープンストリートマップの強みは、自らが地域地図情報を作成することにあり、スピード・必要性に応じた機動性は、紙の地図事業者やインターネットの地図事業者よりも圧倒的に強力である。反面、基本的に必要なデータは自分で整備することが求められ、ほかの地域の情報はその地域で整備するわけで、人手のない地域は空白になることが予想され、不偏に整備することを考える事業者の作成する地図情報とは粗密の差が激しい。また、ウィキノミクスという考え方そのものが従来の事業の考えとは非常に異質なため理解を得ることや実際に活動する人材を集めることが難しいことが予想されるし、オープンストリートマップでの課題でもあり、最大の脅威でもあると考えられる。ただ、インターネットが生活に浸透しつつあり、著作権管理が強化されて合法的な使用範囲が小さくなる中で、クリエイティブコモンズ(CC-BY-SA 2.0)は、データを作成・改変・利用（商用/非商用問わず）がしやすいので、時期としてはよい機会にあるといえる。

短期的課題は、現在のほぼ道路情報のみの状態から一歩進めて店舗情報や観光情報などの利用者が欲していると思われる情報を得て入力するマンパワーの確保の問題と、オープンストリートマップのような活動の理解を得る問題がある。また、投資・経費が少ないとはいえ金銭的利益（粗利が近い）が上がるような活用をする者が飯能で現れるかどうかはまったく未知であることも課題の一つとして挙げられよう。

長期的課題は、地図情報がある程度整備されたあとメンテナンスについてで、基本は気が付いた者が必要に応じてということになり、組織だった活動になり難いことが考えられる。

【参考】各地の地図

飯能駅周辺

<http://www.openstreetmap.jp/showmap?zoom=14&lat=4279981.0631&lon=15508806.41775&layers=B0>



東京駅周辺

<http://www.openstreetmap.jp/showmap?zoom=14&lat=4256772.87039&lon=15558265.95236&layers=B0>



ロンドン市内

<http://www.openstreetmap.jp/showmap?zoom=14&lat=6713124.54704&lon=-12826.17774&layers=B0>



ワシントン D.C.

<http://www.openstreetmap.jp/showmap?zoom=14&lat=4706432.79846&lon=-8573887.99969&layers=B0>

